

令和元年度 第2回沼津市幼保小連携協議会 報告

○日 時：令和元年12月4日（水）14：30～

○場 所：沼津市役所水道部会議室

○出席者：秋山 和徳（沢田小学校 校長） 中山 由美子（第一小学校 教諭）
蓮池 千春（金岡小学校 教諭） 内村 美恵子（香貫小学校 教諭）
保坂 賀世子（大平幼稚園 主任教諭） 岩本 美穂（光長寺幼稚園 教務主任）
眞野 裕輝（原町幼稚園 教諭） 佐々木美也子（大平保育所 副所長）
須山 静香（天神保育園 副主任） 横田 香織（恵愛保育園 副主任）
後藤 信俊（幼稚園型認定こども園こずわ幼稚園 園長）

事務局：教育企画課、子育て支援課、学校教育課

（欠席）：杉浦 敬子（幼保連携型認定こども園杉浦学園 副園長）

○主な内容

幼保小の円滑な接続について

（事務局説明）

- ・スタートカリキュラムの実施状況（市内小学校の調査結果）について
- ・幼児期の終わりまでに育てたい姿（10の姿）について
- ・接続期のカリキュラムについて

（主な意見）

スタートカリキュラムの実施状況について

- （小）学校教育課が9月に行った実態調査の結果（24校中10校が作成していないという実態）に驚いた。
- （小）作成してあっても活用されていない状況がある。
- （小）学習指導要領総則に幼小の接続を計画的に行うことが明記され、スタートカリキュラムという言葉も出てきている。来年度の全面実施を控え、早急な確認や作成が必要である。

幼児期の終わりまでに育てたい姿（「10の姿」）について

- （幼保）月の反省で「10の姿」がどうであったかチェックしている。足りないことについては、翌月の計画案にどのように取り入れればよいか考え反映している。
- （幼保）年長では、「10の姿」を意識した計画を立てている。それより下の学年は、まだ5領域のままであり、あまり意識できていない。
- （幼保）振り返りを行う時に意識はするが、意識の中に置くレベルである。各自、研修会等で学んできているものの、まだ身に付いていないというのが現状である。
- （幼保）これから学んでいくという段階である。指導要録に関わる職員は、書くときにどのような項目があるかは見るが、全員が意識できているかというところでもない。
- （幼保）まずは、保育に携わる者が「10の姿」を考えて子供と接していくということを認識すべきである。
- （小）幼保小だけで「10の姿」には近づけられない。保護者にも「10の姿」を意識してもらい、家庭教育が大事であるということをお知らせできるようにしていきたい。

県版モデルカリキュラム、沼津市版接続期カリキュラムについて

- (小) 「10の姿」へ向けて育てていく幼保と、幼保で「10の姿」を目指して育てきた子供たちをどのように育てていくかという小学校側の認識が、同じベクトルでつながっていくとよい。沼津市では、小学校側でそのベクトルの矢印が弱く、幼保側は意識しているもののベクトルの向きや大きさにばらつきがあるという状況であることが確認できた。
- (小) 沼津市版接続期カリキュラムを作っていくことは、先生方の意識化を図るという意味でも、幼保小の質的な連携を強める上でも非常によいと感じる。
- (小) ある程度の枠組みを沼津市版接続期カリキュラムで示し、各校各園で、それを踏まえてそれぞれの教育内容を盛り込んだ物を作っていけばよい。
- (小) スタートカリキュラムの確認や県版モデルカリキュラムの周知、沼津市版接続期カリキュラムの策定については、沼教振(沼津教育振興会)の生活科部会と連携を取る必要がある。
- (小) まったく新しいことが始まるのではないということも確認したい。そうすることにより、今あるものを活用しながら、あるいは、今あるものを修正改善しながらでよいという視点になっていく。そこに家庭教育の視点も少し混ぜていくとよい。

交流・連携・幼保小の円滑な接続

- (幼保) 保育園は、幼稚園と比べて小学校との関わりが薄いと感じている。交流が増えると相互に様子が分かると思う。定期的に顔を合わせていれば互いに相通ずる物ができ、意見交換をしながらよい方向に発展していくことができると思う。
- (幼保) 4～5月頃に、1年担任と幼稚園の担任が一度話をするだけでも違うと思う。接続期に職員間で話し合いをすることが大事である。
- (幼保) 1時間でもよいので、幼保の先生と小学校の先生と一緒に授業をやってみてもよい。振り返りをする中で相互に意見交換をし、カリキュラムについて互いにアドバイスし合えれば、様子もよく分かると思う。また、年間通して交流を深めて行くのもよいと考える。
- (幼保) 小学校の先生に保育の現場を知ってもらい機会や、逆に、幼保の先生が小学校の現場を知る機会が増えれば増えるほど「10の姿」にも近づいていくのではないか。時間がないことはお互い分かっているが、小中学校から2年目の先生が幼保へ研修に行く(2年目研)ように、もっともっと交流の機会を増やしていけるとよい。
- (幼保) 幼保小の円滑な接続は、家庭抜きでは進まない。
- (小) 学校から2年目の教員が園に研修に行くのだが、逆に幼保から小学校に行って子供を実際に指導する中で連携を深めるというアイデアはとてもよいと思う。

(まとめ)

幼稚園・保育所(園)・認定こども園と小学校との更なる連携や円滑な接続に向け、相互に連絡を取り合い、情報共有にとどまらず可能な範囲で教職員間の交流を進めていくことが大切である。

今後、沼津市版の接続期カリキュラムを示していくとよい。沼津市では、園や学校で実態が大きく異なるため、詳細なカリキュラムではなく、カリキュラムのモデルとして示していきたい。

「スタートカリキュラム」、「静岡県版モデルカリキュラム」、「10の姿」の周知を確実にしていきたい。